

# へきけんニュース

2003年4月2日発行 第34号

北海道教育大学へき地教育研究施設  
〒068-8642 岩見沢市緑が丘2丁目34番地  
TEL:0126-32-0208 FAX:0126-32-025  
E-mail hekiken@iwa.hokkyodai.ac.jp

## 『複式学級における学習指導の在り方 ～学年別指導の実践事例～』の発行について

このたび、『複式学級における学習指導の在り方～はじめて複式学級を担任する先生へ～』に続く第2集として『複式学級における学習指導の在り方～学年別指導の実践事例～』を発行致しました。本書は北海道教育の充実・発展を図る目的で、平成13年2月22日に締結された「北海道教育大学と北海道教育委員会との連携に関する覚書」によるもので、北海道立教育研究所との共同研究の効果です。第1集の内容と関連付けし、学年別指導を取り上げ、具体的な実践事例を掲載した実践編として編集しました。

へき研資料室、図書館、各分館で閲覧ができます。入手を希望される場合は、へき研事務局までご連絡ください。

### 【目次】

1. 複式学級における学習指導上の課題と解決
  - ・北海道における複式学級の現状と課題
  - ・求められる学習指導
2. 学年別指導の授業づくりの手順
3. 学年別指導における工夫
  - (1)単元の指導計画の工夫
  - (2)1 単位時間の学習過程の効果的な組合せ
  - (3)両学年の学習状況を同時に見取る時間帯の設定
  - (4)間接指導につなげる直接指導の充実
  - (5)学び方を育てる指導の手だて
  - (6)間接指導における自主的・主体的な学習の充実
  - (7)間接指導におけるコンピュータ等の活用
4. 学年別指導の実践事例
  - (1)実践事例 [第1学年・第2学年 算数科の事例]
  - (2)実践事例 [第3学年・第4学年 理科の事例]
  - (3)実践事例 [第5学年・第6学年 国語科の事例]



## へき研ワークショップ終了報告

へき地教育研究施設は、平成13年度から北海道立教育研究所との共同研究「複式学級における学習指導の在り方」に取り組んできました。その成果として、『はじめて複式学級を担任する先生へ』と『学年別指導の実践事例』を刊行したところです。

2冊の手引き書は、今後、校内研修や各種の研修講座で活用していただくこととなりますが、これを機に、2月27日(木)にワークショップ「へき地・複式教育における教員研修のあり方～教員養成大学の役割をさぐる～」を次のようなプログラムで開催しました。

基調講演：へき地・複式教育と教員研修 有馬毅一郎(島根大学名誉教授)

報 告：・沖縄県のへき地教育と教員研修

川口 正一(沖縄県立総合教育センターへき地教育研究室 研究主事)

・北海道のへき地教育と教員研修

永澤 篤(北海道立教育研究所教育開発部研究研修主事)

・学校現場から見る教員研修の課題

長塚 好和(紋別市立元紋別小学校長)

討 論：司会 吉田 正生(旭川校助教授)

有馬先生からは、永年のご経験をふまえて、へき地校の特色ある教育実践の具体例、島根大学附属小学校における複式学級の成果と課題、新卒をへき地校に配置しない県教委の方針と複式教育研修の実際、文部科学省の動向など多岐にわたるお話をうかがいました。

川口先生からは、離島の多い沖縄県の教育事情、新卒3年を経た教員のへき地校勤務の義務化、へき地校赴任前基礎講座、2種の短期講座、移動教育センターの研修講座と共同研究、教育センターにおける長期研修(1年、半年)などが報告されました。



開会式における村山紀昭学長 挨拶



ワークショップ風景

永澤先生からは、北海道における教員のライフステージに応じた研修体系（1年目の初任者研修～28年目の採用校長研修）、へき地・複式教育に関する研修の諸形態、北海道立教育研究所が行う研修講座の内容などが報告されました。

長塚先生からは、へき地校教員をとりまく諸問題が率直に語られ、人事異動に伴う研修支援の必要性、授業公開を原則とした校内研修の推進、校外研修の条件整備、学校間ネットワークづくりなど、教育現場からの具体的な研修課題を挙げていただきました。

講演と報告をふまえた討論は、「入職」後の教員がパワーアップして「退職」するまでの職能段階で、大学、学校、行政は何ができるか、何をしなければならないのか、何が障害になっているのかという教員研修の全体像をふまえて行われました。焦点になったのは、北海道における新卒教員のへき地校配置という大変難しい問題でしたが、ご参加いただいた行政や学校現場の先生方と大学教官との間で、忌憚のない意見交流ができました。また、自己研修が重視されている趨勢のなかで、個々の研修テーマに対応できる大学教官の専門をいかした「夏季バイキング講座」などが求められるという有馬先生のユーモアあふれるお話は、へき研のみならず、教員養成大学の役割を再考するうえで示唆に富むものでした。



有馬毅一郎先生（島根大学名誉教授）



川口正一先生（沖縄県立総合教育センター）



永澤 篤先生（北海道立教育研究所）



長塚好和先生（紋別市立元紋別小学校長）

## 平成15年度「へき地教育研究計画」の募集

本施設の研究費による「へき地教育研究計画」を下記のように受け付けます。研究費の性格から、研究題目ならびに内容はへき地教育の分野に関連するものであること、その成果は次年度の研究紀要『へき地教育研究』に投稿することが義務づけられています。

### 研究計画の申請

\* 所定の計画書は各校の代表研究員にお問い合わせください。なお、へき研ホームページでも掲載しております。

\* 記述にあたっては、研究目的・内容を具体的にお書きください。

\* 経費は、校費（備品・消耗品・その他）のみで、「旅費・諸謝金」はありません。

\* 申請額の上限は、20万円です。

\* 研究計画書（1部）は、4月末までに、各分校の代表研究員に提出してください。

### 研究計画の採否

\* 予算示達をうけて、7月初旬の研究員会議で決定します。

研究成果の投稿締め切りは平成16年5月末です。（『へき地教育研究』第59号に収録）

\* 調査研究の研究課題は、次の3つの領域に属するものとする。

- ・ へき地・小規模校教育に関する基礎的・理論的研究
- ・ へき地・小規模校教育に関する実践研究（実践報告を含む）
- ・ へき地・小規模校教育にかかわる地域研究

\* 「へき地・小規模校教育の発展に資する本研究の意義」を簡略に明記する。

## 研究紀要『へき地教育研究』第58号の投稿締め切り

(1)平成14年度に採択された研究計画の成果の投稿締め切りは、平成15年5月末です。

『へき地教育研究』執筆要綱に基づいて、紀要原稿提出用紙を添付の上、各分校の代表研究員に提出してください。所定の提出用紙は、各校の代表研究員にお問い合わせください。なお、へき研ホームページでも掲載しております。

(2)研究費の配分を受けていない方からの投稿も歓迎します。

詳細は、各校の代表研究員または事務局にお問い合わせください。